

## アクティブラーニング施設のための利用状況把握システム等の整備

### 1. 内容

#### 【主体的な学修の促進に向けて】

多様なバックグラウンドを持つ学生さん一人一人の教育ニーズを的確に把握し、4年間という限られた時間の中で最大限に「伸ばす」ためには、学生さん個人の学修の状況を能力・志向・専門性等と併せて多角的に分析し、その結果をご本人やご家族、所属学部・学科の教職員などへ適切なタイミングでフィードバックしてゆくことが必要になります。この取組では、特に学生さんが主体的に学修に取り組んでいると考えられる学内の様々な場所について、利用する頻度や時間を把握し、成績などの学修アウトカムとの因果関係等を分析します。そして、結果を学生さんにフィードバックすると共に学内施設や学修環境の改善につなげ、ソフト、ハードの両面から学生さんの学修活動を支えます。

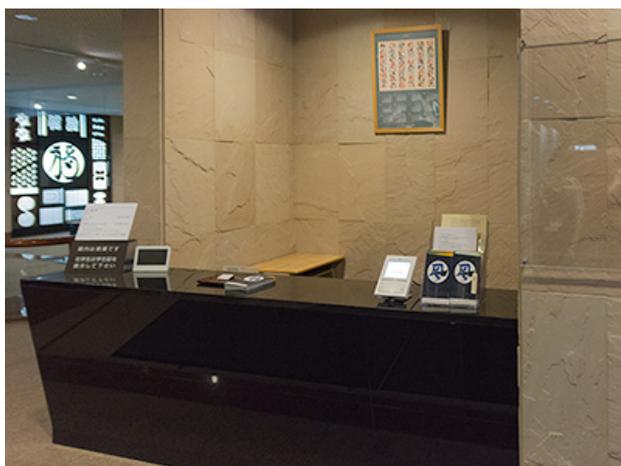
なお、この取組は平成 26 年度文部科学省私立大学等教育研究活性化設備整備事業（タイプ 1）による助成を受けて行われました。

### 2. 経過

#### 【具体的には？】

本学が所有する、感性を育む学びの場（「芹沢銈介美術工芸館」、「けやきホール」、「鉄道交流ステーション」、「法堂」）、アクティブラーニングに向けた施設（「ラーニングcommons」、「語学・異文化学習支援室」、「コンピュータールーム」、サービ斯拉ーニングに向けた施設（「ボランティア支援課」、「キャリアセンター」）の各施設の利用時間と学生さん本人のプロフィールや学修成果等との相関を時間軸に沿って解析し、学修成果の向上につながる因子を分析しています。

施設の利用時間や利用頻度を正確に把握するため、学生さんの入退室に際して学生証（ICカード）から個人データをログとして記録・保存できるように、新たに入退室記録取得システムを構築しました。



芹沢銈介美術工芸館に設置した IC カードリーダー